

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	60人	算数	60人	理科	60人
第5学年	国語	52人	算数	52人	理科	52人

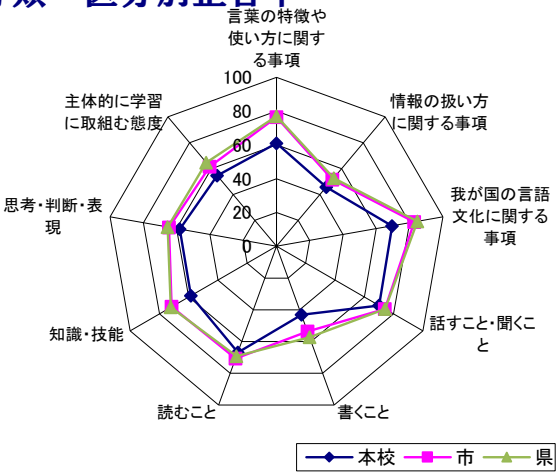
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	61.0	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	45.8	51.5	52.7
	我が国の言語文化にに関する事項	69.5	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	70.1	74.1	74.2
	書くこと	43.2	53.7	57.2
	読むこと	66.9	70.7	69.2
観点	知識・技能	58.4	71.6	72.3
	思考・判断・表現	58.1	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	54.6	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

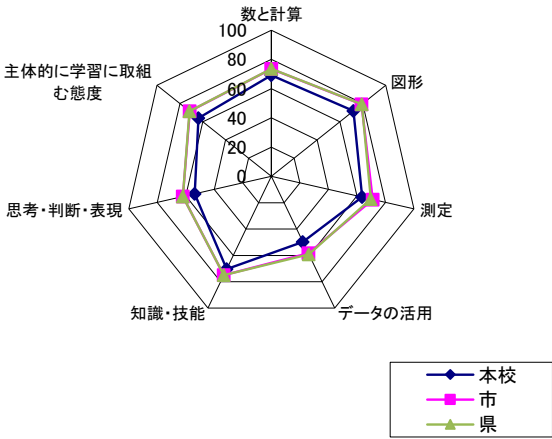
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●「第3学年配当漢字を書く」問題では、県の平均正答率を33.1ポイント下回った。 ●「文の構成（主語と述語）についての理解」の問題では、県の平均正答率を19.1ポイント下回った。	・漢字練習プリントを作成し、繰り返し練習を行ったり、小テストの時間を確保したり、苦手な漢字を取り上げて指導したりすることで、漢字の定着を図る。 ・普段から文章の中で既習漢字を使うように、指導していく。 ・物語文や説明文の学習において、主語、述語を意識させて取り上げていくようにする。
情報の扱い方にに関する事項	●「情報と情報との関係を理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確に書く」問題では、県の平均正答率を5.7ポイント下回った。 ●「情報と情報との関係について理解し中心となる語や文を見付けて要約する」問題では、9.6ポイント県の平均正答率を下回った。	・情報と情報を関連付けて文章にまとめることを、日々の文章を書く活動の中で取り入れる。 ・情報と情報との関係について関連付け理解させながら、大切な言葉に線を引くなどして、自分の言葉で要約できるように指導を進める。
我が国の言語文化にに関する事項	●「漢字のへんやつくりを理解する」問題では、県の平均正答率を15.2ポイント下回った。 ●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く」問題では、県の平均正答率を35.0ポイント下回った。	・新出漢字を扱う際に、漢字辞典を積極的に使用し、その漢字のへんやその名前を確認させる。 ・自分の考えを書かせる際に、段落の役割や意味を理解させながら自分で段落を意識して、文章が書けるように指導をする。
話すこと・聞くこと	●「相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話す」問題では、県の平均正答率を3.2ポイント下回った。	・話の要点を聞き取るだけでなく、相手に伝わるように自分の考えを理由を挙げながら話すことができるように、授業や日常の活動の中に取り入れていく。 ・話合いや意見を発表・提案する場を普段の授業や学級活動、朝や帰りの会で多く設けるようにする。
書くこと	●「指定された長さで文章を書く」の問題では、県の平均正答率を14.9ポイント下回った。 ●「自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書く」問題では、県の平均正答率を9.9ポイント下回った。	・国語だけでなく、他教科の学習の時間を活用して、自分の意見や考えを、文章にまとめ伝え合う時間を意図的に設ける。 ・自分の意見や考えをまとめる際に、理由や根拠を明らかにできるように指導をする。
読むこと	○「文章を読んで感じたことや考えたことを共有する。」問題では、県の平均正答率とほぼ同じであった。 ○「説明文の読み取り」の問題では、県の平均正答率とほぼ同じであった。	・日頃から本に親しみ読書への関心を高められるよう、図書室利用の奨励を図る。 ・説明文の段落ごとの読み取りだけでなく、作者の意図や構成についても押さえるようにする。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.2	73.5	73.6
	図形	71.8	79.0	79.1
	測定	63.7	71.1	69.8
	データの活用	49.7	58.4	59.2
観点	知識・技能	70.4	75.0	75.0
	思考・判断・表現	53.8	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	63.9	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

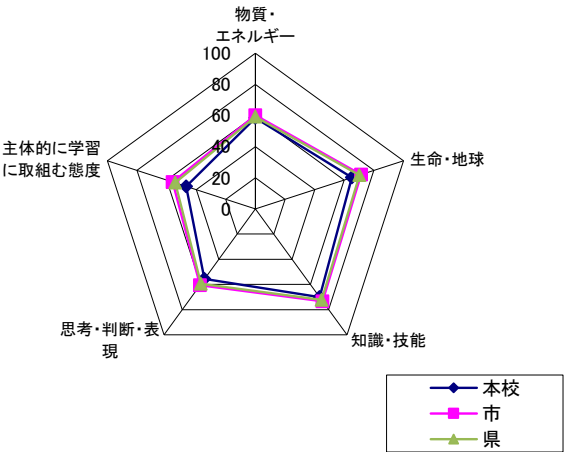
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「小数の相対的な大きさ」の問題では、平均正答率が89.8%で県よりも4.1ポイント上回った。 ○「かけ算(2けた×2けた)」の計算問題では、平均正答率が72.9%で県よりも3.8ポイント上回った。 ●「分数の数直線上での表し方」の問題では、平均正答率が54.2%で県よりも16.2ポイント下回った。 ●「3けた÷3けたの波及的繰り下がりのある計算」問題では、平均正答率が64.4%で県よりも13.8ポイント下回った。 ●「35×14の工夫した計算を説明する」問題では、平均正答率が22.0%で県よりも17.3ポイント下回った。	・分数の意味と表し方について多様な方法で表現させる活動を授業の中で意図的に設け、理解を深める。 ・計算練習については学年の枠を超えて、AIDリルを活用し、日々反復を繰り返していく。 ・計算するときに、ひっ算以外でも簡単に計算できる方法はないか考えさせる機会を設けていく。
図形	●「円の半径」を問われる問題では、平均正答率が62.7%で県よりも13.5ポイント下回った。 ●「球の半径から球が一つ入った箱の辺の長さ」を求める問題では、平均正答率が64.4%で県よりも8.8ポイント下回った。	・半径と直径の意味について再確認し、生活の中で活用する機会を設ける。
測定	●「道のりの意味を問う」問題では、平均正答率が78.0%で県よりも10.1ポイント下回っている。 ●「ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める」問題では、平均正答率が62.7%で県よりも9ポイント下回っていた。	・道のりという用語について確認し、練習問題を通して学習内容の定着を図る。 ・問題から問われていることを正確に読み取ったり、生活の中で活用したりする場面を設定する。
データの活用	●「棒グラフの1めもりの大きさに着目して間違いを指摘する」問題では、平均正答率が49.2%で県よりも13.8ポイント下回っている。 ●「複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取る」問題では、平均正答率が49.2%で県よりも11.8ポイント下回っていた。	・棒グラフから情報を読み取る活動で、グラフのめもりの大切さについて気付かせるようにしていく。 ・身の回りの事象について表やグラフを用いて考察する活動を通して、複数の棒グラフを組み合わせたグラフの良さに気付かせるようにする。 ・普段から算数の学習の中で自分の考えを文章で表現する時間を設ける。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	58.4	60.2	59.2
	生命・地球	65.1	71.3	70.3
観点	知識・技能	70.1	73.4	72.3
	思考・判断・表現	55.7	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	46.8	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「磁石につく物、つかない物」では、15.3ポイント県平均を上回った。 ○「輪ゴムのふるえ方」についての問題では、13.5ポイント県平均を上回った。 ●「磁石と物の距離との関係」を自分の言葉で説明する問題では、9.8ポイント県平均を下回った。また、15.3%の児童が無回答であった。 ●「光の性質」では、鏡の枚数と明るさ・温度の関係についての問題で、9.3ポイント県平均を下回った。	・実験の結果をもとに適切な考察を加えることができるよう、課題を明確にし、児童が何について考えればいいのかははっきりと示す。さらに、考察を学級全体ことで共有することで、理解を確かめるものにさせる。 ・自分の言葉でまとめる力を高めるために、教師がキーワードを示し、児童の書くことへの抵抗を減らす。 ・日常で起こる事象を例として教師が話すことで、実験の結果と日常生活が結び付けられるようにする。
生命・地球	○「身近な自然の観察」では、記録カードの内容を適切に読み取る問題で、6.5ポイント県平均を上回った。 ●「昆虫の育ち方」では、10ポイント以上県平均を下回った。特に、モンシロチョウがキャベツの葉に卵を産む理由を説明する問題では、20.2ポイント県平均を下回った。 ●「太陽と地面のようす」では、影の位置を推測する問題で、7.8ポイント県平均を下回った。	・今年度の4年生は、モンシロチョウを育てる時期に休校だったため、モンシロチョウを育てることができなかった。観察をすることが児童の理解を深めることが分かったので今後、観察や実験を大切にする。 ・正答率の低い問題では、類型外の誤答が多いことから、問題の意味が理解できていないと考えられるので、単元の終末にさまざまな問題に触れることで、適切に解答できるように指導する。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の問いに対しての肯定的回答率は、県・市平均より約8ポイントも高い。どの教科も「将来のために大切だと思う」の肯定回答率が高いことがそのことにつながっていると考えられる。今後も個人の課題や興味・関心に応じて自主学習に取り組むことを奨励したり、学習に対しての前向きな姿勢を称賛したりして、児童の学習に対しての意欲を高めていきたい。

○「自分にはよいところがあると思う」の肯定回答率は、県・市平均より10.2ポイント高い。同じく、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」、「自分がもっている能力を十分に発ぎしたい」の肯定的回答率も県・市の肯定的回答率よりも高い。児童の自己肯定感を高め、学習や生活に前向きに取り組めるように、今後も、ほめたり、クラスの中で自己有用感をもてるような場を設定したりしていきたい。

○「学校のきまりを守っている」の肯定的回答率は、96.6%と高い。朝食を毎日食べていることや、ノートの取り方をきちんと守っていることから基本的な生活習慣がしっかりと身に付いていると考えられる。

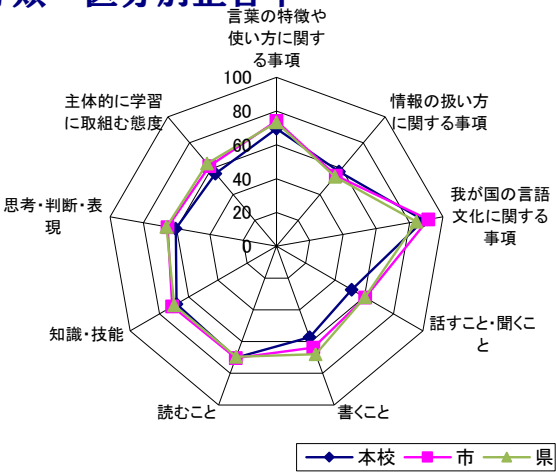
●平日の授業以外の学習時間についての設問では、「30分より少ない」と回答した児童の割合が22%であり、県・市平均よりかなり多い。また、休日の学習時間についての設問でも、全くしないの回答が15.3%で県・市平均の約倍となっている。学習時間の確保、家庭においての時間の使い方など、児童、保護者に呼び掛けていきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と感じている児童が半数以上いる。また、国語においても、自分の考えを理由とともに気を付けて書こうとする児童が少ないことから、文章表現を苦手としている児童が多いことが分かる。授業中に自分の考えを文章で表す機会を増やし、苦手克服に向けて取り組めるような指導を工夫したい。

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.6	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	57.7	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	88.5	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	51.5	60.6	60.4
	書くこと	57.2	63.8	68.0
	読むこと	70.2	70.4	69.6
観点	知識・技能	68.4	71.3	69.9
	思考・判断・表現	60.5	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	56.2	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

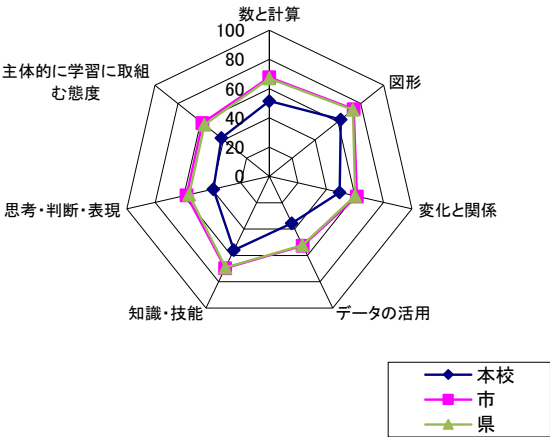
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	●「健康」という漢字については、県の平均正答率を6ポイント下回っており、無回答の児童が多かった。 ●「連体修飾語」の問題では、県の平均正答率を6.5ポイント下回っていた。	・既習の漢字を確実に使えるように、漢字テストを定期的に行い、定着を図る。 ・文法に関しては授業の時間だけでは補えない部分があるので、朝の学習や家庭学習等で文法の問題を繰り返し行えるよう指導する。
情報の扱い方に関する事項	○説明文の「段落相互の関係を捉える」の問題では、県の平均正答率を10ポイント上回った。 ●「言葉の学習」では、漢字事典の使いこなし理解することに課題がある。県の平均正答率を1.9ポイント下回っている。	・説明的な文章を読む時には、段落同士の関係を考えながら注意深く読むように、繰り返し指導を行っていく。 ・今後、分からない漢字や新出漢字が出てきたとき等、漢字事典に触れる機会を多く持たせるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	○「言葉の学習」の問題では、ことわざの意味を知り正しく使っている。県の平均正答率を4.3ポイント上回っている。	・今後も継続してことわざ等、言葉に多く触れさせるようにする。
話すこと・聞くこと	●話すこと・聞くことの問題では、どれも県の平均正答率を下回っている。「話し合いの内容を聞き取る」問題では、どの問題も県の平均正答率を下回った。特に「話し手が伝えたいことの中心を捉える」の問題では、県の平均正答率を11.8ポイント下回った。	・話し手の意図を考えて、注意深く聞く活動を行ったり、簡潔にメモを取る方法を身に付けたりする活動を繰り返し行う。 ・1分間スピーチ等の活動で、自分の伝えたいことの中心をはっきりさせて話すことができるよう訓練する。
書くこと	●「アンケートの調査結果から書く」の問題については、県の平均正答率を10.8ポイント下回っていた。また、無回答率も他の問題に比べると高かった。 ●資料からの読み取りはできているが、条件に合わせて書くことができていない児童がいる。	・無回答率が高かった原因として、書くことへの苦手意識があったり、時間配分を調整できなかった児童が多いことが考えられる。 そのため、国語だけでなく他教科の学習の時間を活用して、資料から読み取ったことや自分で考えたことを書いたりする機会を増やす。 ・ただ文章を書くのではなく、条件に合わせて文章が書けるように繰り返し練習をさせていく。
読むこと	○物語文の「登場人物の気持ちを捉える」の問題では、県の平均正答率を6.7ポイント上回った。 ●説明文の「叙述を基に文章の内容を捉える」の問題では、県の平均正答率を10ポイント下回った。	・読むことに関しては、どちらかというと説明文の読み取りに課題が見られている。教師が意図的に説明的な文章の本を紹介し、説明的な文章を読む機会を増やしていく。 ・説明的な文章を読む時には、筆者の意図を考えながら注意深く読むように、繰り返し指導を行っていく。

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	51.6	67.8	67.0
	図形	62.5	73.9	73.1
	変化と関係	49.4	61.4	60.2
	データの活用	35.6	52.7	52.1
観点	知識・技能	56.0	69.7	69.2
	思考・判断・表現	39.3	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	42.0	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

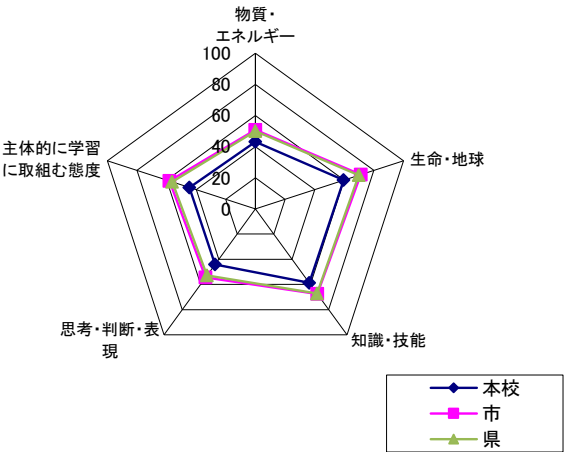
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「図を使い、倍とわり算の文章問題に合った式を選ぶ」問題では、平均正答率が85.5%で、県より14.5ポイント上回った。 ●「小数第一位×整数」の計算問題では、平均正答率が71%で、県より10.5ポイント下回った。	・小数×整数は、整数×整数に置き換えたあと、1/10にするという考えを十分に理解できるようにし、定着を図れるようにする。
図形	○「分度器の中に示された、角の大きさの目盛りの読み取り方」を理解する問題では、平均正答率が71%で、県より4.3ポイント上回った。 ●「5等分した長方形の1つの辺の長さを求める」問題では、平均正答率が51.6%で、県より6.9ポイント下回った。	・1つの図形を等しい面積で、変則的に配置した際の図形の1辺の長さを求めるような、活用型の問題に慣れることができるようにする。
変化と関係	○「四角形の対角線の性質について」の問題では、平均正答率が71%で、県より11.2ポイント上回った。 ●「地図から情報を読み取り、平行四辺形の特徴を使って2つの道のりが等しくなる理由を説明する」問題では、平均正答率が12.1%で、県より3.3ポイント下回った。	・情報を正確に読み取ったり、「きより」や「道のり」という用語の意味を理解したり、平行四辺形の特徴を理解したりという基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る。そのことに加え、生活場面に合った問題を解決する機会を増やし、基本的な力を活用できるようにする。
データの活用	○「折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する」問題では、平均正答率が27.4%で、県より8.6ポイント上回った。 ●「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」問題では、平均正答率が19.4%で、県より17.3ポイント下回った。	・□+2=○のように1つの数字が変わると答えも変わるという比例につながる規則性についての理解を、違った数字を当てはめてもできることを考える場を設け、理解の定着を図れるようにする。

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	43.1	50.8	50.0
	生命・地球	59.6	71.1	69.8
観点	知識・技能	58.7	67.6	67.2
	思考・判断・表現	44.1	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	44.6	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「電気のはたらきで、電池のつなぎ方の名称を問う」問題において正答率が県平均を4.6ポイント上回った。 ●「物の体積と力」では、学習内容の活用力を問う問題において正答率が県平均を15.1ポイント下回った。 ●「もののあたためり方」では、金属のあたためり方と水のあたためり方を比較して差異点を明らかにする問題において正答率が県平均を11.7ポイント下回った。	・実験器具の扱い方を問う問題において、正答率が低くなっている傾向がある。このことから、演示実験や映像資料を活用したり、実験前に器具の扱い方を練習したりするなどして、技能的に習得するとともに、なぜそのような扱い方をするのかという理由にも注目させるように授業展開を改善する。 ・実験結果を予想したり考察したりする問題において、正答率が低くなっている傾向がある。このことから、日々の授業の中で課題解決型学習を展開し、実験結果を覚えるだけの授業にならないよう改善する。
生命・地球	○「天気のようにすと気温」では、知識・技能を問う問題において正答率が90.4%であり、県平均を2.2ポイント上回った。 ●「1年間の動物のようす」では、季節ごとのオオカマキリの様子を問う問題において正答率が県平均を14.7ポイント下回った。 ●「雨水のゆくえと地面の様子」では、自然現象について問う問題において正答率が県平均を24.3ポイント下回った。	・記述式の問題及び活用力を問う問題において、無回答率が高くなっている傾向がある。このことから、用語を覚えたり短答で答えたりする授業から、用語を活用して説明する場面を多く取り入れた授業展開になるよう改善する。

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「話し合ってクラスのきまりを決めている」の肯定的回答率が県・市の平均より9.7ポイント高い。「人と話すことは楽しい」、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の肯定的回答が高いことから、本校の児童が他の児童を尊重して話し合い活動を行っていることが分かる。今後も、話し合いの場面を意図的に設定していきたい。

○「自分には、よいところがあると思う」の肯定的回答率が県・市の平均よりも10.7ポイント高い。「自分は家族の大切な一員である」の肯定的回答率が94.2%と高く、県・市の平均よりも上回っている、家庭での子供のかかわり方などもあり、本校の児童の自己肯定感が高いことが伺える。

○「家で、学校の宿題をしている」が100%の肯定的回答率だった。また、家で、テストでまちがえた問題について勉強をしたり、自分で考えた学習や予習をしたりする児童の肯定的回答率が県・市の平均より高く、家庭での学習を大切に思い充実させていることが分かる。

●土・日の学習時間に関する設問では、全くしない児童が11.5%と、県・市の平均を大きく上回っている。また、平日の学習時間が1時間未満の児童の割合が48.1%と、県・市の平均と比べても10.5ポイントも高い。宿題や家庭学習にきちんと取り組んでいるので、毎日学習することの大切さを伝え、家庭での協力を仰ぎながら家庭学習を習慣づけるよう励ましていきたい。

●「漢字の読み方や意味が分からないときは、辞書を使って調べている」の肯定的回答率が53.8%で、県・市の平均より9.1ポイント低い。分からないことを調べようとする姿勢が十分に育っていないと考えられるので、授業中のさまざまな場面で辞書や資料集などを用いて調べる場や時間を確保していきたい。

宇都宮市立国本中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習後の振り返りの場の設定	めあてに対する学びの振り返りを行い、自分の学んだ内容や身についたことの確認ができるようにする。	「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」という質問での肯定回答率は、4・5年生共に県平均を下回っていた。
対話的な学びによる知識の定着	全体での話し合いだけでなく少人数グループでの話し合いの場を設け、話す力や聞く力を付ける。	「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という質問の肯定回答率は、4・5年生共に県平均を大きく上回った。また、「友達と話し合う時、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の肯定的回答率は4・5年生共に県平均を上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・漢字の書き取り ・語彙力の不足 ・自分の考えを表現する力	・漢字の学習に意欲をもたせる工夫 ・語彙力を伸ばすための指導の工夫 ・振り返りの工夫	・定期的に漢字のミニテストを行う。 ・読書活動を推進する。 ・朝の学習で言語学習を行ったり、活動後の振り返りを具体的な言語で表したりすることで、語彙力と表現力を育成する。